

三浦で不登校・ひきこもり研修会 行政と民間で連携を 支援の仕組みづくり探る

県横須賀三浦地域県政総合センター主催の「不登校・ひきこもり研修会」が二十八日、三浦市南浦町上宮田の南下浦市民センターで開かれた。学校や児童相談所などの行政機関のほか、特定非営利活動法人（NPO法人）などの関係者ら

約五十人が参加。専門家から講義を受けるとともに、不登校の若者らへの支援施設の運営などをしてきた民間三団体が事例紹介を行った。

不登校やひきこもりなどの青少年らを地域で支える仕組みづくりを推進していく上で、行政と民間、地域との連携を深めていこうと、同センターが初めて開催した。

まず、国立病院機構久里浜アルコール症センター精神科診療部長の鈴木



「不登校・ひきこもり研修会」で講義する国立病院機構久里浜アルコール症センターの鈴木健二さん

健二さんが「不登校とひきこもり 共通点と相違点」をテーマに講演。診察経験を基に、不登校の八割は将来的に社会復帰できるが、ひきこもりは心の病を負っている場合もあるなどと両者の違い

を説明する一方で、「共同体の消失」などの共通する社会的背景を解説。「小さい試みの寄り合いでも、サポートのシステムをつくっていくしかない」などと語った。

続いて、「文化塾&フリースクール」（三浦市三崎町六合）と「フリースクール Being」（横須賀市久里浜）、NPO法人「アンガーシュマン・よこすか」（横須賀市上町）の三団体が活動内容や個別事例を報告。「共通の問題として家庭の不安定が挙げられる」「家庭内にとこまに入り込んでいいのかわからない」と課題を挙げながら、外部機関との連携についても考えた。

（武田 博音）